

24 能海寛の外国語文献を読む

【全5回】／開催方法：現地

おかざきひでき
岡崎秀紀

能海寛研究会会長
学芸員



受講料 一般料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：10月31日)

【日程】【全5回】 1回／月 不定週 土曜日、日曜日
(11/5、11/25、12/23、2024/1/27、2/24)

※カレンダーでは「◎岡崎」と表記

【時間】13:20～14:50

■受講に必要なもの

[テキスト] レジュメ配布

能海の英語学習歴は、1885年、広島進徳教校で受けた英語教育が初と思われます。1886年入学した京都普通教校は、普通学とともに英語を重視し、外国人教師を採用して、原書で講義を行っていました。能海は在学中、禁酒と進徳を掲げる反省会に結集し、英語の学習に力を注ぎます。英作文サークル“English Composition Society”(E.C.S.)をつくり、機関誌『NEW BUDDHIST』(週刊)を発行しています。1890年からは慶應義塾で学び、英語の発信を続けます。E.C.S. 機関誌は改題し、『Wisdom & Mercy』(智慧と慈悲)として、刊行を続けます。Editorial社説、Reading Articles 読み物、Newsニュースなどを手書きで記述して編集しました。こうして、英語力を高めていった能海は、仏典を英語に翻訳して世界に発信するという大きな目標を持ち、実践を重ねました。

本講座では、研究者らによる英語・中国語・仏語・独語の文献を提示して、概要を解説します。

第1回 能海寛の英文機関誌『NEW BUDDHIST』(1889)、『Wisdom & Mercy (智慧と慈悲)』(1890)
能海は英語の必要性、主義主張を英語で述べることの重要性に触れ、その上で、仏教を世界に発信すること、日本仏教の国際化を考えていました。

1) Sir. Edwin Arnold (1832-1904) との交流

…アーノルド卿は、釈迦の生涯をうたった長編詩『アジアの光』(1879)で著名

2) 能海の主張例

「We find that English is most common for all men on the world,」(W&M No.1)

「If we not know of the English writing, we can not spread the Buddhism over the whole earth.」(M23.10)

第2回 能海寛の英語翻訳—仏典英訳—

1) 翻訳成果

「大無量寿経」(1890) …アーノルド卿に添削指導を受ける

「二河白道」(1892) …浄土教典の英訳で最初期のもの

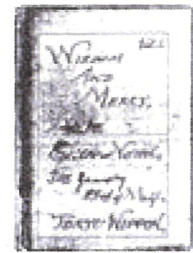
仏教=E.Schragintweit『Buddhism in Tibet』(1863)、

S.Chandra Das『Life and Legend of Tsong Khapa』(1882)

2) 英語文献の筆写

Mr.James『A Heap of Ashes A soliloquy on the frailty of human life』

(1892) …蓮如上人の御文章「白骨の御文」



第3回 英語文献の紹介 —能海の先進的なチベット研究を評価!—

1) Jonathan A.Silk 「Nomi Hiroshi」『THE HEART SUTRA IN TIBETAN』(1992)

…サンスクリット学への貢献を評価

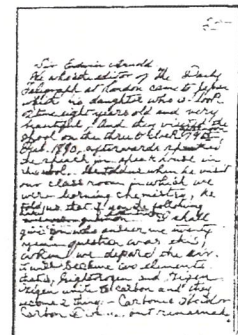
2) Scott Berry著『Monks, Spies and a Soldier of Fortune

—The Japanese in Tibet—』(1995)

…能海、慧海の探検を比較する

3) Kaneko Tamio著「Early Japanese Travellers in Central Asia and Tibet」、『JAC』Vol.17 (2006)

…金子民雄氏(能海研究会学術顧問、ヘディン研究)の解説



第4回 中国語文献の紹介

1) 劉貫一編著『帝国主義侵略西藏簡史』(1951) …初めて能海の名が登場

2) 王珏玉・王思玉「日本人入蔵行(一)(二)」『西藏研究』3、4号(1990) …専門誌に初めて掲載

3) 胡振華「一位鮮為人知的日本蔵学家 能海寛」『石峰』第2号(1996) …金城で感銘を受ける

4) 姚詩「足偏八方的日本学僧能海寛」『日本学刊』第1期(1999) …能海を全中国に発信

5) 何大勇「中国的能海寛研究綜述」(2020) …現代中国で能海研究の第一人者

第5回 フランス語・ドイツ語文献の紹介—能海の最期(屏風岩)—

1) Alfred Foucher著「CHRONIQUE JAPON」(1902) …フランスの情報収集力

2) Detjen Verlag編・中村保著『DIE ALPEN TIBET』(2008) …初のドイツ語文献

まとめ